

# 評価対象事業一覧

## 総務分科会

評価対象事業	シティセールス推進事業		
当初予算額	11,200 千円	決算額	10,953 千円
最終補正後予算額	11,200 千円		
事業概要	少子高齢化、人口減少社会への突入などの社会情勢を踏まえ、「持続可能な活力のあるまち」を実現するため、「選んでもらえるまち」を目指すためのシティセールス戦略に沿った具体的アクションプログラムを企画、実行し、シティセールス戦略の目標である多摩市の認知向上、理解促進を図った。		
選定理由	①長期化するコロナ禍で人々の生活やまちの様子も変わりつつある中で、多摩市をどうアピールするのか。来街者をどう増やしていくのか。若い世代の定住促進などが大変重要であるとするがこの事業がそれにどう対応したのか。 ②政策監がいなくなった影響はどうだったか。影響があるとすれば、今後どのように対応するのか。 ③市民自らが魅力を創り上げ、発信することも重要であり、“商店街”はその活動の拠点となり得る。シティプロモーションの重要なポイントにもなりうる商店街を中心とした地域の活性化についても調査する。		

## 健康福祉分科会

評価対象事業	健幸まちづくり推進事業		
当初予算額	1,075 千円	決算額	503 千円
最終補正後予算額	521 千円		
事業概要	<p>ライフウェルネス教材の配信・貸出、40 歳向け健幸啓発情報誌の発行、健幸まちづくりシンポジウムオンラインの開催等を通して、市民が「健幸」について意識し、健幸的な生活の獲得ができるよう後押しし、健幸的な生活を獲得しやすい環境づくりに寄与した。また、多摩市版地域包括ケアシステムの実現を目指し、組織横断的な相談支援体制を構築するため、研修や多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会の設置に向けた各種取組を行った。</p>		
選定理由	<p>本事業は、第五次多摩市総合計画・第 2 期基本計画の柱の事業であり、第 3 期基本計画でも、「健幸まちづくりのさらなる推進」が基盤となる考え方に位置付けられているが、令和 3 年度はコロナの影響もあり、あまり進んでいない印象を受ける。一方で、コロナ禍で働き方や生活様式が変わったことにより、健幸に対する興味関心はますます高まっている。</p> <p>市民に対する健康維持の意識づけなど新たな手法も必要と考えるが、具体的にどのような活動をしてどのような効果があったのか、全庁横断的な連携は、コロナ禍において市民にどのように役だったのか、また、市民の健康状態を把握する手法、健康無関心層へのアプローチなどについて議論・確認し、評価したい。</p>		

## 生活環境分科会

評価対象事業	地球温暖化対策事業		
当初予算額	9,222 千円	決算額	8,825 千円
最終補正後予算額	10,375 千円		
事業概要	地球温暖化防止に向け、その主要因である温室効果ガスの排出量削減を図るための取組みを推進し、脱炭素・省エネルギー社会の構築を行うことを目的とする。令和 3 年度は、創エネルギー・省エネルギー機器等導入補助金事業を実施し、太陽光発電設備や蓄電池等の設置に対する補助を行った。また、気候非常事態宣言に関連した啓発動画を作成し公開を行った。		
選定理由	<p>地球温暖化対策は地球規模においても、地域でも昨今極めて重要なテーマである。しかし、事業展開の将来性を考えた上での具体案に不足し、市民への啓発も限定的である。</p> <p>令和 3 年度に行うとされていた啓発事業などの効果や、補助金による再生可能エネルギー・省エネルギー機器等の導入推進について進捗状況を確認し、常任委員会のテーマである「多摩市気候非常事態宣言」の具体化をどう進めるか、来年度策定予定の「多摩市みどりと環境基本計画」及び「多摩市地球温暖化対策実行計画」にどう繋がるか、市民協働をどう進めるかの視点で評価する。</p> <p>なお、環境保全啓発事業・ごみ減量化推進事業についても同様の視点で調査を行い、本事業の評価に活かしていく。</p>		

## 子ども教育分科会

評価対象事業	教育活動指導員配置事業		
当初予算額	82,677 千円	決算額	66,081 千円
最終補正後予算額	80,217 千円		
事業概要	<p>教育活動指導員（ピアティーチャー）を全校に配置し、通常の学級・特別支援学級において、特別な配慮を要する児童・生徒一人一人の状況に応じた個別の学習支援、及び学校生活上の介助等を充実させることで、子どもたちの基礎学力を定着させ、学校生活を安心して送ることができるようにした。</p>		
選定理由	<p>特別支援学級のみならず通常の学級においても特別な配慮を要する児童生徒が増えているため、学校現場でのピアティーチャーの需要は年々高まり、今後もさらに需要が増えていくことが予測されるが、このような中で、需要に見合う配置がなされていると言えるのか、学校間で差はないか、ピアティーチャー配置で学校運営の安定が図られているのか、特別な配慮を要する児童生徒の実態に沿った適切な配置となっているのか、更なる配置の工夫はできないか等を検証・協議し、評価する。</p>		